

令和6年度



学校経営説明

重点テーマ

「夢の実現 15の春！」



佐世保市立黒島小中学校

黒島はまゆう学園

令和6年 4月1日

校長 関口 雄資

令和6年度 学校教育目標・経営方針

はじめに

学校の教育活動のすべては「子供たちのため」にあります。私たちは、常にこのことを忘れず、深い愛情と信頼関係を基盤に、予測困難と言われる未来社会を逞しく「生きる力」の基礎を、子供たちに身に付けさせなければなりません。

黒島小中学校は、26年度より小中併設校となり、平成30年度から新校舎のもと、義務教育学校としてスタートしました。連続した9か年を見通した教育をできる学校となり、社会人への基礎づくりとしての責任を果たすことを求められる学校となりました。

また、黒島には高校がありません。中学校卒業と同時に、「夢の実現」のため、親元を離れる生徒もいます。全ての子供たちが、明るい未来へ向かった「15の春」を迎えることができるよう、職員それぞれが与えられた職責を果たし、全職員が一丸となって子供たちの教育に邁進していきましょう。

1 教育方針

憲法・教育基本法^の精神及び長崎県・佐世保市の教育方針に基づき、郷土及び、社会の一員として、時代の変化に対応できる心身ともに健康でたくましく、人間性豊かな児童生徒の育成を目指します。そのため児童生徒や保護者並びに地域との信頼を築き、全職員が自らを律し、使命感と責任感をもって一致協力し、本校教育の充実に努めます。

2 校訓・学校教育目標

○校 訓 「^{しま}島 ^{こころ}魂（誇りと自信）」 ～Kuroshima's Pride～

○学校教育目標

「**ふるさとを愛し、自ら未来を切り開く、黒島っ子の育成**」

※未来（予測困難）を切り開く力＝確かな学力

※確かな学力の定着を支えるのは心身の逞しさ

※心身の逞しさとは、次の力をバランスよく身につけること

- 1 自ら学びに向かう力（自主性・主体性・向上心・自律心 等）
- 2 学び続ける力（思考力・判断力・忍耐力・調整力 等）
- 3 他者とかがわかる力（思いやり・寛容・柔軟性・コミュニケーション力 等）
- 4 新たな価値を見出す力（創造力・柔軟性・応用力 等）

※各教科等のすべての学びをとおして、非認知能力の育成を図る。

ふるさと黒島の「人・もの・こと」を最大限活用し、確かな学力を身につけさせる。（本校が極小規模の義務教育学校であることも含む。）

3 めざす子供像・学校像・教職員像

(1) めざす子供像

○優しく、感性豊かな子供（徳）

感性を磨き、自他の生命を重んじる思いやりあふれる子供の育成。

○進んで意欲的に学ぶ子供（知）

学ぶことに喜びを感じ、意欲的に学習に取り組む子供の育成。

○最後までやり抜く子供（体）

心身を鍛え、何事も粘り強くやり抜く、逞しい子供の育成。

(2) めざす学校像

○子供の夢を育み、夢を叶える学校

未来を見据え、子供一人一人の学びを大切にする学校。

※地理的なへき地はあっても、教育にへき地があってはならない。

○明るく、笑顔あふれる学校

秩序・規律・環境美化を重視する、安心・安全な学校。

○地域とともにある学校

地域に根ざし、共存し、信頼に応える学校。

※地域の一員として地域・保護者と同じ立場で連携を深める。

(2) めざす教職員像

○子供とともにある教職員

常に未来を見据え、子供に寄り添いながら、必要な力を授業で育む教職員。

○チームとして高め合う教職員

義務教育学校の教職員という自覚をもち、子供のために協働する教職員。

○地域を愛する教職員

黒島の良さを知り、地域とともに子供の育成に努める教職員。

4 本年度の学校経営の基本的な考え

令和6年度重点テーマ

「夢の実現 15の春！」

～自ら課題に立ち向かい、乗り越える力の育成～
〈義務教育の出口を意識した、9年間の学びの構築〉

そのために

- (1) 義務教育学校の良さを最大限に生かす。
 - ①前期課程高学年から（一部）教科担任制の積極的導入
 - ・後期課程教職員の専門性を生かし学力向上につなげる。
 - ②前期課程全学年における外国語活動及び外国語科の授業実施
 - ・後期課程教職員の専門性を生かし学力向上につなげる。
 - ③極小規模の強みを生かした独自の学びのスタイルの実践・検証
 - ・一斉指導からの脱却。
 - ・「教師が答えを教えない授業」「教師が説明しない授業」の実践。
 - ※子供自らの力で学び、伝え合う授業
 - ※非認知能力の育成をめざした授業
 - ※教師はファシリテーター（進行役）に徹する。
 - ※教師は子供の学びの支援者・伴走者に徹する。
 - ④多様な異学年交流による自己存在感・肯定感を高める。
 - ⑤地域の実情を踏まえた9年をひとまとまりにした取組の充実 ～検証と更新～
 - ・カリキュラムに基づいた「ふるさと黒島学」の実践と更新
 - ・前期高学年からのキャリア教育・進路指導の充実
 - ・学習規律や家庭学習に系統性をもたせる。（子供が思わず取組みたくなる家庭学習）
 - ・生活指導及び生徒指導の共通理解・実践、そして充実
 - ・受身から発信へ（「させてもらう」から「働きかけていく」へ）
- (2) 全職員で全児童生徒を育成する。

常に児童生徒に寄り添い、1～9年生まで全員が社会人になった姿を思い描きながら「今を生きる」子供たちを大切にする（15で島を離れることを意識しながら）。
- (3) 保護者や地域の方々との信頼関係をつくる。

島に一つしかない学校だからこそ、「地域とともにある学校」を目指す。
- (4) 教職員の信頼関係をつくる。

小学校・中学校それぞれの文化の良さを認め合い、取り入れながら、同じ義務教育学校の職員として、チームで子供たちを育成する。（チーム黒島小中学校）
- (5) 義務教育学校の良さと可能性を積極的に情報発信する。

「県内初」の注目度を子供たちの自信と誇りの育成に生かす。
※学校HP、学校だより、学年だより等
- (6) 「黒島だからできる」「黒島しかできない」感動体験に取り組み豊かな感性を育てるとともに学力向上を図る。

※「ふるさと黒島学」においては「探究的な学び」【「自分（たち）なりの問いを立て、対話活動等をとおして、自分（たち）なりの方法で、自分（たち）なりの答えにたどり着く」学び】を行い、学力向上へつなげていく。
- (7) 「極小規模」の課題を補うための、他校との交流（含オンライン）、魅力的な大人と

出会い、芸術や文化との出会いの場を設定する。

(8) 礼儀正しい児童生徒を育成する。「時を守り、場を清め、礼を尽くす」

- ・ 5分前行動
- ・ 決して清掃活動に手を抜かない。
- ・ 靴やスリッパをきちんとそろえる。
- ・ 心のこもった元気で心地よいあいさつ・返事・言葉遣いができる。
- ・ ありがとう、ごめんなさいが素直に言える。

(9) 整理整頓の行き届いた「きれいな学校」にする。

校舎・体育館・運動場に愛着を持ち、大切に利用する心情を育てる。

(10) 教職員としての立場を自覚し、行動する。

地域に住み、地域の一員として、子ども・保護者・地域の信頼に応える。

重点努力事項（キーワード 3つの「あい」ことば）

1 みがきあい（キラキラ）

未来社会を「生きる力」の基盤となる「確かな学力」を、授業において身につける。

(1) 授業改善と学力向上

学校は授業が第一、1時間1時間の授業を大切にする。

- ① 学習指導の充実（授業改善）と学力向上
- ② 自ら学び、考える力を育てる授業の創造
一斉指導から脱却し、極小規模校の強みを生かした「教師が答えを教えない」「教師が説明しない」授業の構築
- ③ 「確かな学力」に直結した家庭学習（**思わず子供が取り組みたくなる家庭学習**）の研究
- ④ 一貫教育の中で、学習のつまずきを見極め、基礎基本の定着
※各種学力調査の分析の徹底
- ⑤ 学びの連続性の構築
- ⑥ 「ふるさと黒島学」を中心とした、教科横断的カリキュラム「黒島っ子学力向上プラン」の実践と検証

(2) スポーツ、文化の振興と健康安全教育・食育の推進

健全な精神、前向きな思考、耐性力を育てるスポーツ、文化活動を推進する。

- ① スポーツ活動や文化活動の充実
- ② 健康・体力・耐性力の増進のためのハートタイムの推進
- ③ 望ましい食習慣の形成と基本的生活習慣の定着
- ④ 健康・安全に関する指導の徹底

2 ささえあい（ニコニコ）

豊かな心と、規範意識を高め、安心・安全な教育環境を構築する。

(1) 豊かな心を育てる道徳教育・体験活動の充実

自他のかげがえのない「いのち」に気づかせ、自己有用感を高める。

- ①道徳的実践力に繋がる授業の工夫改善（特別な教科「道徳」の確実な実践）
- ②「いのち」を輝かせて生きることに関心をあてた道徳の授業
- ③自己有用感を育てる「福祉・ボランティア活動」の充実
- ④人権教育・平和教育の推進と男女共生意識の高揚
- ⑤徳育の実践と「一校一徳運動」の実践
- ⑥職員との触れ合いによる、人間性の向上
- ⑦朝読書・読み聞かせの推進

(2) 生活・生徒指導・進路指導の充実

心のふれあいを大切に、児童生徒理解に努め、人格を育てる。

- ①明るく心の通い合うあいさつ
- ②時と場に応じた正しい言葉づかいの励行（教師自ら言語環境を整える）
- ③子供に寄り添い、成長を促す指導の徹底（コーチングの視点）
- ④個性の尊重と細やかな教育相談（特別支援教育・いじめの認知）
- ⑤活力ある児童生徒会活動の促進と自治意識の高揚
- ⑥キャリア教育と進路指導の充実

(3) 安心・安全な環境と美化活動の推進

環境は無言の教育、清潔で美しい学校づくりをする。

- ①施設・設備の点検・整備（学校事故〇）
- ②教材・教具、ネットワーク環境の最大活用
- ③師弟同行の教育で進んで取り組む清掃・美化活動
- ④掲示板の有効活用による掲示教育の推進

(4) 綱紀粛正・服務規律の徹底・働き方改革

教師として、地域に住む大人としての自覚を持つ。まずは教師が元気であること！

- ①服務規律委員会による職員研修と不祥事根絶
- ②飲酒運転・体罰・わいせつ行為・セクハラ（パワハラ・モラハラ等）の厳禁
- ③個人情報徹底管理
- ④働きやすい職場づくり
- ⑤勤務時間の適正化に向け、全職員で積極的な協力参画体制を整える
- ⑥業務を精選する 「なくす・見直す・簡素化する」の視点
- ⑦業務への集中、シンプル化、早めの帰宅

※業務改善の合言葉・・・「楽をしよう！！

「楽」な働き方の実現のために・・・

- 自分自身の働き方をマネジメントする。
- 自分の状況と、周囲の状況を見極める。
- 最小限の力で、最大限の効果を発揮するための手立てを講じる。

3 わかりあい（ワクワク）

保護者・地域と連携・協働し、共通理解・共通実践のもと子供を育てる。

(1) 家庭・地域との連携

教師の心を開くことは、学校を開くこと以上に大切である。

- ①積極的な情報発信と「開かれた学校づくり」の推進
- ②育友会活動及び地域活動への積極的な参加
- ③地域とともにある学校の推進
 - ・保護者、地域の方の学校教育活動への参加促進
授業への参加 学校行事への参加 スポーツ活動への参加
 - ・地域人材の活用

(2) 教職員の連携

義務教育学校の教職員として、ワンチームとなり子供を育てる。

- ①義務教育（9年制）学校の職員である

※本校は、義務教育学校であり、システム上の違いはあっても、小中併設校ではなく小中連携校でもない1つの学校である。従って、本校職員は、小学校教員でもない、中学校教員でもない、義務教育学校の職員である。この自覚のもと、自分の学年・学級だけ、前期課程だけ、後期課程だけの意識をなくし9年間を見越した教育を行っていく。そのために1つの学校として、こだわりなく、職員が口を出せる・手を出せる・関わることのできる環境作りを行う。

- ②本県教育の将来像を創る学校であり、先生方はその職員である

※本校は、小・中学校の垣根を越え、9年間を見越して、人としての基礎づくりを行う学校である。本校職員は、これから学校教育がどのような方向に進んでいくべきかを創作し、転勤・退職後は、今後の学校の方向性や、それぞれ小学校・中学校職員として何をすべきかを導いていく自覚を持つことを望む。

- ③保護者・地域や外部機関に守られ成り立っている学校である

※学校単独で全てをやり遂げられるものは少なく、人材・道具・知識等、学校行事等多くのものを少なからず、周りの方々に支えられ成り立っている学校である。
地域の方々と少しでも知り合いになり、応援してもらい、招いていくことを意識する。



すべては子供たちのために